

アートを活かしたまちづくりについて

市丸 どのようなアートを活用したまちづくりを行っていくのか。

答弁 アートを核とした教育、ビジネス、活動の支援、移住・定住などの地域経済循環型システムの構築を行うって、アートのまち多久として展開を図っていきたくと考えています。

市丸 「池田学展」「田川清美展」の成果について。

答弁 池田学展は、16日間の開催期間で7,032名(うち市外65%)、田川清美展は、18日間の開催期間で3,007名(うち市外70%)でした。開催中は人の流れも多く回遊性生まれ、一定の経済効果があったのではないのでしょうか。

市丸 アート作品に児童生徒が触れる機会がないか。

答弁 池田学展の開催時には、各学校より送迎を行い鑑賞する機会を設けました。田川氏の作品は、例えば各学校の文化祭などで展示し、鑑賞してもらいたいと考えています。

市丸 今後の展開について。



市丸勝義 議員

答弁 中心市街地でのウォールアート推進事業で作成する100作品により、アートのまち多久のブランディングを行い、交流人口の増加による地域経済の活性化に向けた仕組みづくりを行っていきます。



田川清美展



池田学展

防災・水害について

彌富 農林災害に対し旧産成地鉱害復旧事業の基金の活用はできないか。

答弁 基金の対象外地区への活用は困難です。農林事業には災害復旧事業のほか多面的機能支払交付金、地域農業水利施設ストックマネジメント事業、市単独事業の原材料支給などの事業があり、八ツ枝地区につきましては、詳細な調査が必要ですが、これらの事業で対応できる可能性があります。関係機関に農業用施設管理の重要性や補助事業の拡充、補助率のかさ上げなどの要望を行っていきたく考えております。

稼働した施設の運営状況と評価について

彌富 タクアを含む公共施設の計画と稼働後の総括は。

答弁 施設の利用状況、運営状況、老朽化状況など社会情勢や経済情勢の中、継続的な評価を行っております。タクアに関しては、令和2年度から続くコロナウイルス感染拡大の影響や原油価格高騰による経費増により厳しい経営状況と言わざるを得ない状況が続いています。毎月、タ



彌富博幸 議員

クアと商工観光課、多久市観光協会、多久市商工会との連携会議を設けており、より大きな効果が生まれるよう努めています。

マイナンバーカードについて

廣橋 マイナンバーカードの多久市での普及状況と現在の活用状況について。

答弁 現在の申請率は81.42%と普及が進んでいる状況です。マイナンバーカード活用状況では、医療機関や薬局でのオンライン資格確認、e-Taxによる確定申告などがあります。

廣橋 保険証として多市内で使用できる医療機関とトラブルの発生事案について。

答弁 市内で現在、26の機関のうち25の機関で導入済みです。未導入の機関は、機器の設置の準備中であり、近々導入の見込みです。他人の資格情報が紐付いているといったトラブルはありませんが、機器の不具合により資格確認ができない事例は発生しています。マイナ保険証を使うメリットは、高額療養費制度の申請省略、特定健診や薬剤処方情報の健康管理への活用、窓口における自己負担が、初診で約12円、再診で約6円安くなります。

廣橋 マイナンバーカードによるコンビニでの住民票などの各種証明書



廣橋時則 議員

の取得について。

答弁 多久市においては、1件当たりの発行コストが非常に割高になるため、現状では導入を見送っていますが、オンライン申請などで対応しています。よりよいデジタル社会を多久市でも実現していきたいと考えていますので、検討する方向で考えていきます。

廣橋 マイナンバーカードで印鑑証明書や住民票などをコンビニで取得できれば、早朝から深夜まで、土曜も日曜も関係なく、日本中どこでも取得可能です。是非導入をお願いいたします。

生活困窮者支援について

坂口 物価高騰により生活困窮者が増加傾向にあると思われま。支援の手だては。

答弁 令和5年度は支援給付として低所得世帯の方に対し1世帯あたり30,000円の支給を予定しています。更に全世帯に対して、水道料金の基本料金の減免なども行っているところ。①生活困窮者自立相談支援事業②家計改善支援事業③就労準備支援事業を社会福祉協議会に委託し、個々の困窮の特徴などに応じた継続的な支援を行っています。

带状疱疹予防接種の助成について

坂口 50代から高齢者期にかけ、带状疱疹に罹患される方が多いなかワクチンの必要性は。

答弁 高齢者を健やかにお過ごしいただくためにも必要と考えています。坂口 九州では佐賀県と長崎県だけがワクチン接種の助成がなく一時も早い助成の検討をお願いします。

答弁 今後、国の定期接種にかけた検診状況を注視してまいります。带状疱疹の症状や予防など、多久市のホームページなどでお知らせします。

子どもの医療費助成制度について

坂口 高校生年代には、受給資格証がなく償還払い(医療機関支払い)市窓口申請(払い戻し)の助成となっている。受給資格証の発行の考えは。

答弁 国の子ども未来戦略方針の加速化プランにおいて、国民健康保険の国庫負担の減額措置を廃止するなど必要な措置を講ずるとなっておりますので、今後国の方針を見ながら子どもと保護者にとってより良い制度となるよう検討を進めていきます。



坂口絹代 議員